

ふるさと再発見!

vol. 26

# ほろほろわかやま

巻頭  
特集

## 高野山の暮らしと不思議

～ 山上の異世界にようこそ ～

散策

ものづくりat和歌山

わかやま魅力発信人

I♥WAKAYAMA 私の和歌山

のんびり里山さんぽ -天野の里-

名工の技受け継ぐ -びん附油-

藤村あゆみさん ~和歌山のアスリートを育てたい~

真言密教の聖地「高野山」 高野町

# 高野山の暮らしと不思議

標高867mの山上に突如現れる仏教世界。

高野山は約1200年前に弘法大師(空海)によって開かれた真言密教の聖地だ。

そこには、長い信仰の歴史が育んだ独特の文化が息づいている。

山上の異世界に足を踏み入れ、宗教都市ならではの

暮らしや不思議を探ってみよう。

——山上の異世界にようこそ——

## 高野山の略史

とも多々あった。

高野山には、開創から明治

平安時代初期の延暦23年(804)、唐に渡って正統密

5年(1872)まで女人禁制のため女人道から山内に女性が入れなかった。総本山金

余りで帰国し、真言密教を全国各地に広める。そして弘仁

剛峯寺はその山内全体を指し、「一山境内地」と称される。

7年(816)、真言密教の道場として高野山を開山し

現在でも、壇上伽藍と奥之院の両壇を中核として人々の信仰を集めている。山内には1

た。翌年から伽藍建立に着手するが、弘法大師は承和2年

17の塔頭寺院があり、そのうち52カ寺は宿坊として参拝者へ宿を提供している。

(835)、完成を待たずして入定し、即身成仏を遂げた。

その後、高弟の真然大徳があとを継ぎ伽藍を完成させる。以来、修禪の道場として

栄え、最盛期には2000もの堂舎が立ち並んだという。

また数々の火災や内紛等によって、興亡の岐路に立つこ

また数々の火災や内紛等によって、興亡の岐路に立つこ

また数々の火災や内紛等によって、興亡の岐路に立つこ

また数々の火災や内紛等によって、興亡の岐路に立つこ

また数々の火災や内紛等によって、興亡の岐路に立つこ

また数々の火災や内紛等によって、興亡の岐路に立つこ

また数々の火災や内紛等によって、興亡の岐路に立つこ

## 高野山の年中行事

1月	1～3日	修正会	奥之院・金堂
	5日	大塔修正会	大塔
2月	3日	大塔節分祈禱会	大塔
	14～15日	常楽会(涅槃会)	金剛峯寺
3月	彼岸中日の 前後3日間	春季金堂彼岸会	金堂
	21日	正御影供	奥之院・御影堂
4月	旧曆3月20日	旧正御影供御逮夜法会(万燈万華会)	伽藍
	旧曆3月21日	旧正御影供	奥之院・御影堂
	8日	仏生会	金剛峯寺
	10日	庭儀大曼荼羅供	金堂
	21日	奥之院萬燈会	燈籠堂
5月	3～5日	春季結縁灌頂(胎蔵界)	金堂
	21日	大施餓鬼会	奥之院
	旧曆5月3日	山王院暨精	山王院
6月	15日	宗祖降誕会	大師教会
7月	1日	准胝堂陀羅尼会	准胝堂
8月	7～13日	不断経	金堂
	11日	孟蘭盆会	金剛峯寺
	13日	高野山万燈供養会(ろうそくまつり)	奥之院
9月	11日	傳燈国師忌	金剛峯寺
	彼岸中日の 前後3日間	秋季金堂彼岸会	金堂
	23日	一座土砂加持法会	金堂
10月	1～3日	秋季結縁灌頂(金剛界)	金堂
	1～3日	奥之院萬燈会	燈籠堂
	16日	明神社秋季大祭	山王院
	27日	諡號奉讀会	奥之院
12月	10日	大般若転読法会	大師教会
	31日	御幣納	御社

※毎月16日は、山王院にて月並法会。毎月21日には、奥之院にて月並御影供が行われています。(3月・4月・5月は除く)

※年中行事は変更となる場合があります。予めご了承ください。



### 山上の暮らし

高野山といっても、その名の山があるわけではなく、周囲を高嶺に囲まれた東西6km南北3kmの平坦地で伊都郡高野町を中心とする地域をさ

す。その地形は蓮の華に例えられ、内八葉外八葉と呼ばれる峰々に囲まれている。そのため、麓の人里を眺めることも、逆に人里から眺めることもできない。俗世と隔絶され自然に包まれた、修行に最適な場所なのだ。奈良や京都から離れた山間に位置したことから、政治や時代の流れに翻弄されることが少なく、真言密教の道場として信仰を集め、独自の伝統文化が守られてきた。

町の人口は約2,900人。そのうち約800人が修行に励み信仰に生きる僧侶だ。住民は彼らとともに暮らしている。四季折々に営まれる年中行事や風習では弘法大師の教

えが守り伝えられ、生活の中に信仰が根付いている。

中世の権門に端を発して庶民にまで広く浸透した高野参詣には、現在でも多くの人が訪れる。

花樹等の植樹が禁じられていたため花の代用品として高野槿を供花に用いる風習があったり、弘法大師の生誕を祝う僧侶中心の宗教儀礼から住民主体の祭礼に発展した青葉まつりや、萬燈会から現在のろうそく祭りまで連続と続く燈明信仰、神仏習合の姿を残す明神社秋季大祭など、高野山特有の伝統文化が形成されている。

奥之院には、20万基以上といわれる供養塔や墓石があり、宗派や思想などの違いを分け隔てなく受け入れる寛容さを感じられる。これは地域の人々が1200年以上受け継いできた精神であり、高野山の魅力となっている。



高野山に行くなら、宿坊に泊まって庭を眺めながら精進料理をいただいたり、目で見て体で感じる宗教行事や瞑想めいそうなどを体験することもおすすめ。都会ほど便利とはいえないけれど、穏やかな時間の流れに身を任せて心を整えるには最高の場所だ。

# 食

## 精進料理

高野山伝統の味。肉食を禁じる戒律かいりつのなかで工夫を凝らし、素材の味を生かしたごちそうとして生み出された。

## 高野豆腐(凍り豆腐)

その名の通り高野山が発祥の地。厳しい冬の寒さを利用して作られた保存食で、精進料理には欠かせない。江戸時代から全国的に知られた特産品。

## 胡麻豆腐

精進料理の一品。白胡麻と吉野葛と水を材料につくられる。弾力のある食感と胡麻の風味が特徴で、高たんぱくでヘルシーな食品としても人気がある。



# 文化

## 数珠

数珠・念珠は、高級なものからブレスレットタイプまで種類が豊富で、高野山の仕立ては全宗派に通用すると言われる。お土産の定番。

## 陀羅尼助

薬草を配合した漢方の胃腸薬。開創当時からその製法が伝えられていた。



## 写経

仏教の中心のお経である般若心経を書き写す。弘法大師は、心を込めて写経することにより、心身ともに健やかになり、幸せをもたらすと説いた。



### 三針の松

壇上伽藍の御影堂と金堂の間にある松の木。通常、松は二葉だが、三針杵と同じように三つに分かれた三葉があり珍しい。縁起物としてその落ち葉を持ち帰る人も。三針杵は法具のひとつで、弘法大師が唐から帰国の途につく際に、真言密教を広めるにふさわしい場所を求めため、日本へ向けて投げたと伝わる。



# 植物



### 高野檜

高野山では仏前に高野檜が供えられる。弘法大師が供花の代わりに高野檜の枝葉を御仏前に供えたことが由来とされる。山内各所に高野檜を扱う店がある。

### 西行桜

壇上伽藍の三昧堂の前にある桜の木。三昧堂を修造した記念として、西行法師が手植えしたと伝わる。以前のものは文化年間に枯れ、現在の桜は後世のもの。



# 不思議

### 覚鑿坂

奥之院参道の中の橋を渡ってすぐさしかかる石段。途中で転ぶと寿命が3年もたないといわれる。「死を越える」という意味で、42段よりひとつ多い43段となっている。



### 汗かき地蔵

中の橋を渡ってすぐの地蔵堂に祀られている。世の中の人々の苦しみを身代わりとなって一身に受けているので、いつも汗をかいていると伝えられている。

### 玉川の魚

玉川のほとりで小魚を捕って食べようとしていた山男を大師が見つke、小魚を買い取って清流に放した。その山男は殺生の罪をくい、魚を捕ることをやめたという言い伝え。今でも山内の人はこの魚を食べないという。

和歌山県北東部に位置し、世界遺産とフルーツの町として知られるかつらぎ町。なかでも高野山のふもと標高約450mにある天野盆地は、四季が織りなす自然に囲まれた山里で『にほんの里 100 選』にも選ばれている。今回は、世界遺産の一部でもある丹生都比売神社の周辺を歩いてみた。

# のんびり 里山さんぽ

—天野の里—

まずは、世界遺産にも登録されている丹生都比売神社に参拝だ。外鳥居をくぐると鏡池に大きな輪橋（太鼓橋）が掛かっていて木造の反りが美しい。中鳥居をくぐって立派な楼門の前で参拝した。奥の本殿は、楼門の横手に回るとよく眺めることができる。色鮮やかな社殿が左右に4つ並び、楼門と共に重要文化財に指定されている。

境内を後にして周辺を散策する。道標に導かれて石造五輪卒塔婆群に着いた。案内板によれば大峯修験者ゆかりの五輪卒塔婆だという。すぐそばに光明真言板碑があった。こちらは寛文2年（1662）の建立で高さ2m以上あり、今まで見た光明真言板碑のなかでひと際大きい。

道路に戻って少し行くと天野和み処Café客殿があった。現在はコロナ禍もあつて席が埋まることが多く、予約したほうが確実とのこと。高野山

真言宗総本山金剛峯寺の「御用達米」にも認定されている「天野米」を味わえるカフェだ。

先をすすむとまた道標に誘われる。草が生い茂る細い道を通って森に入ると、小さな祠が鎮座していた。日の光は木々に遮られ、近くを流れる沢のせせらぎと鳥のさえずりだけが聞こえている。奥之沢明神はとても落ち着いた場所だった。

のどかな田園風景が続く一帯を歩いてお照の墓へ向かう。山裾にひっそりと小さな墓と石碑があった。丹生都比売神社駐車場のほうへ戻って、物産販売所ようよつてに立ち寄る。地元野菜や加工品が並んでいた。

神社脇にある地図看板をながめ、県道をそれて南下してみる。坂道の途中にも道標がいくつつかある。突然、道沿い左側に有王丸の墓があった。大きな石のほかに小さな供養塔がいくつも



②石造五輪卒塔婆群・光明真言板碑

四基の高い石柱（五輪卒塔婆）は、100名余りの大峯修験者（山伏）が入峯に際して建てた碑。板碑は光明真言曼荼羅碑といい、正面の円形内には光明真言の梵字、背面には多くの僧名が刻まれている。

### アクセス

公共交通機関で  
JR和歌山 笠田駅より  
コミュニティバスで約30分  
バス停 丹生都比売神社前下車

車で  
京奈和自動車道  
かつらぎ西ICより約20分

時間はおよそ1時間。

ある。続いて少し高台にある西行堂に向う。お堂から少し下には、西行妻娘の墓とされる小さな石塔が仲良く並んで立っていた。あとは県道沿いを北東へ神社前バス停に戻って、帰路についた。

健脚の方であれば、もう少し足を延ばして八町坂を登り切り、三ツ鳥居や、町石道を歩いて六本杉を巡るコースにするのもいいだろう。今回の所要

ニツ鳥居



### ⑤貧女の一燈お照の墓

高野山奥之院の燈籠堂で千年以上も灯り続ける「貧女の一燈」を献じたお照の墓。尼となったお照は天野に移り住み、生涯を終えた。



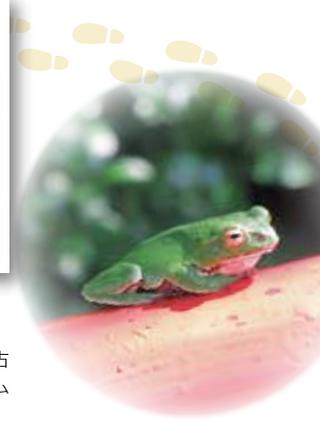
### ④奥之沢明神

丹生都比売大神(丹生明神)が初めて天野の地を踏んだ場所とされている。奥之沢・中之沢・柳沢で祀られている三沢明神の一つ。



### ③天野和み処café客殿 〔かつらぎ町上天野140〕

天野米を中心に食事やスイーツを提供する古民家カフェ。営業時間・営業日は電話やホームページで要確認。TEL 0736-26-0372  
www.cafekyakuden.xyz



### ⑦有王丸の墓

平家物語に登場する有王丸の墓。平清盛へ謀反を企てた罪により鬼界ヶ島に流された俊寛に仕えていた有王丸は、主の遺骨を高野山に納め法師となって、天野に住み生涯を終えた。



### ⑥物産販売所ようよって 〔かつらぎ町上天野786〕

朝採れの新鮮野菜を即日販売。ごま豆腐や金山寺味噌などの加工品、うどんやコーヒーもあり。土・日・祝のみ営業。



### ⑧西行堂

「新古今和歌集」の代表的な歌人として知られた西行。西行を追ってきたとされる妻娘の住まいがあった付近に建てられたお堂。平安時代末期から再建が繰り返されている。



### ⑤貧女の一燈お照の墓



### ④奥之沢明神



### ①丹生都比売神社 〔かつらぎ町上天野230〕

天照大御神の妹神である丹生都比売大神をまつる神社の総本社で、1700年以上前の創建。弘法大師空海は白と黒の犬を連れた狩人に出会い、その犬が高野山へと導いたとされている。狩人は丹生都比売大神の御子である高野御子大神(狩場明神)の化身だと伝わる。





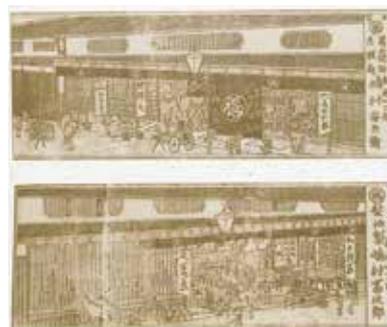
天保13年(1842年)に油商として創業した株式会社シママラは2022年に180周年を迎える。大正8年(1919年)に民間栽培としては初めてのオリーブ園を小豆島に開設し、今ではオリーブを活用した化粧品や食用のオイルを主力製品として開発しているが、創業当時から変わらず作り続けている製品がある。それが日本髪を結う際につかわれる「びん附油」である。



創業の品絶やらず

株式会社シママラが創業時から作り続けているびん附油。ライフスタイルの変化とともに需要は減り、主力商品はオリーブ製品に移り変わったが、現在でも力士の髻や歌舞伎役者の化粧下地などに利用され、伝統芸能を支える無くてはならない製品のひとつである。

一時は原料の木蠟もくろうを作る会社が廃業し、生産を諦めかけたこともあったが、びん附油に適した木蠟を九州で見つけ生産を続けている。



明治初期の店頭の様子

二〇一六年には職人の和田浩一さんが厚生労働大臣表彰「卓越した技術者(現代の名工)」に選ばれた。現在は和田さんから技術を学んだ山口さんがびん附油の製作を任されている。山口さんは「伝統のあるものなので引き継いでいきたい」と語る。

名工の技  
受け継ぐ

# びん附油ができるまで

## ① 原料の木蠟と なたね油を溶かす

和蠟燭の原料として知られる木蠟だが、びん附油には漂白した木蠟を使う。  
木蠟と油の配合量で固さが変わるため用途に合わせて調整している。



ハゼの実から精製された木蠟

## ② 均一にかき混ぜながら 冷やして固める

混ぜすぎると柔らかくなり過ぎてしまい「品質が泣いた」といわれる状態になる。  
温度や湿度の変化によって

固まるタイミングが異なり、この見極めが最も重要な箇所だという。



桜の棒で穴を開け全体を均一に冷やす

## ③ 潰しながら練り合わせる

ダマが残らないよう何度も叩いて伸ばす作業を繰り返す。作業中に道具や手にびん



木蠟の粒を叩いて潰す作業

附油がくっつかないよう、なたね油を塗りながら作業をしている。

## ④ 丸くまとめた材料を 圧搾機で成形する

圧搾機は三〇年ほど前にこの為だけに作製した。使用用途によって円柱などにも成形される。



ゆっくりと圧力をかけることできれいに仕上がる

## ⑤ 商品ごとに決まった 長さに切る

圧搾機ができる前は木枠に流し込んで固まったものを、専用の道具を使用して切っていた。



成形され棒状になった製品を切る

## ⑥ 出来上がった製品を 包装して完成



完成したびん附油



びん附油を製作するための道具類



### 株式会社シマムラ

〒641-0043  
和歌山県和歌山市宇須2丁目3-8  
TEL: 073-426-2266  
FAX: 073-422-0140



ゆうゆうスポーツクラブ海南  
スポーツインストラクター

藤村あゆみさん



# 和歌山のアスリートを育てたい

今回は北海道出身で、スポーツインストラクターの藤村あゆみさんに、アスリートの目から見た和歌山の魅力を語っていただいた。

## 和歌山について

「最初は和歌山について何も知りませんでした。『どこ?』っていう感じで」。藤村さんが和歌山を訪れたのは、平成二十四年(2012)のこと。わかやま国体のスピードスケート競技に、和歌山県の選手として出場するためだった。

五輪に出場した姉を持ち、自身もインターハイやインカレを制覇。オリンピック出場を目指して数多くの大会に参加してきた。当然、国内外を問わず訪れた地域は多い。しかし、スケートは冬の競技、暖かい土地にはあまり縁がなかった。和歌山で選手を引退。その後は選手時代に蓄えたコンディショニングや補強の知識を生かし、インストラクターとして地



域の人たちに体の動かし方を指導している。

## トップアスリート

として

らいに厳しいものだった。しかし、先輩後輩の礼儀をはじめ、努力する姿勢、くじけないメンタルなど、その環境のなかで培ったものは多い。

スピードスケートを通じて、多くの人と出会い、広い世界を見ることができたことも大きな財産のひとつだ。「和歌山の子どもたちにも、広い視野を持ってもらいたい。私の経験を伝えることで、その手助けができれば」。無二の「財産」を生かして、子どもたちの可能性を少しでも広げたいと考えている。

## トレーニングは海へ

北海道から和歌山へ。極寒の地から温暖な南国へというイメージだが、実際は「和歌山の冬も十分寒い」という。北海道



**藤村 あゆみ**

1990年、北海道生まれ。スピードスケート選手として第一線で活躍した。白樺学園高校時代にインターハイ、日本体育大学時代にインカレを制覇。2015年ぐんま冬国体（紀の国わかやま国体の冬大会）には和歌山県選手として出場した。姉の祥子は2014年ソチ五輪に出場。引退後は、NPO法人ゆうゆうスポーツクラブ海南でスポーツインストラクターを務めるかたわら、ジュニア駅伝の指導にも取り組み、地域のスポーツ振興に汗を流している。

は暖房をはじめとする防寒対策に隙がないので、屋内に入っただけでも、あまり寒さを感じない。でも夏は、というと、和歌山の夏はやはり北海道では考えられないくらいに暑く、慣れるまでは厳しかった。

うが多かった。そのひとつが、「海がすぐそこにある」ということ。海の見える片男波や雑賀崎でのランニング、自転車などはモチベーション上がるトレーニングとして記憶に残っている。

**人に恵まれ、人を育てる**

和歌山の最大の魅力は人と人の距離が近いこと。方言も「ゆったりほんわかとした感じ」で親しみやすかった。「和歌山の友だちが大好き。指導する対象も子どもからお年寄りまでいろいろですが、それぞれにかかわる楽しさがあります」と、人に恵まれて充実した日々を送っている。

これからの目標は、五輪を目指せるような和歌山のアスリートを育てること。そのための課題は「もっと広い視野で世界を感じ、経験すること」だという。「違う土地から来たからこそ見えるものもある。もうひとつ上を目指せるよう、お尻をたたいていきたい」と意気込み、指導に汗を流す日々が続く。



スピードスケート競技に出場した藤村さん（右から4番目、緑の帽子）

郵便はがき

6 4 0 - 8 7 9 0

和歌山市梶取17-2

**株式会社 ウイング**  
「ほうぼわかやまクイズ & プレゼント」係

料金受取人払郵便

和歌山中央局  
承認

6391

差出有効期限  
2022年12月  
14日まで



ふりがな			
お名前			
年齢	歳	ご職業	
ご住所	〒		
電話番号			
クイズの答え	1	• 2	• 3
本誌の入手場所	※あてはまるものを1つ選びください。		

※応募くださいました個人情報は、プレゼントの発送及び弊社からのお知らせ以外には使用しません。

## 真言密教の聖地「高野町」

高野町長 平野 嘉也

高野町は、平安時代の弘仁7年(816)より弘法大師空海が修行の場として開いた高野山真言宗の聖地で、高野山を中心とし、貴重な文化財、建造物、名所が数多く存在します。



2004年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。また2016年に、女人道、黒河道、京大坂道不動坂が世界遺産に追加登録され、日本のみならず世界中から多くの参拝者、観光客が訪れています。

歴史、文化、伝統のある無限の可能性を秘めたこの高野を『もつと元気なまちに』そして『誰もが住みよい、住みたくなる、来なくなる』まちづくりを目指し、町民の皆さんが抱くそれぞれの夢の実現に向けて日々邁進しています。

県内でも新型コロナウイルスを受けた地域や事業所は多いと思います。しかし、ワクチンや治療薬等も出てきました。新たな生活様式も組み入れながら、社会活動や経済活動を開始し、みんなでコロナ禍を乗り越えて以前のような日常を取り戻していこうではありませんか。また、今号では高野山の暮らし、不思議、植物などを取り上げていただきました。少し違った目線で高野山を知っていただければ幸いです。

この号が発行される頃の高野町は、寒さが厳しい季節ですが、ぜひ足をお運びいただいて、荘厳な高野山を体感してください。

## 編集後記

この号が完成する直前の11月、岡山県の就実大学から講師の依頼があり、「地域情報誌の編集」をテーマにお話をさせていただきました。受講者のなかには学内広報誌の編集に取り組む学生もいたので、「言い換えのテクニック」や「文章のリズム」など、具体的な質問が多く、編集の仕事というものをあらためて見つめ直すことにもなりました。

再認識したのは、「書く」ことはあくまでゴール地点だということ。その前には取材対象を見つける、許可を得るといったプロセスがあり、そこがなければ何も始まりません。逆に言うと、そこが「書く人」の腕の見せどころでもあります。

1年振りの発行となった26号は、コロナの影響でいろいろと難しい状況が続くなか、そのプロセスの部分で苦勞の絶えない号となりました。誌面を埋める大変さを思い知ることになったのですが、その分、編集メンバーは一段とレベルアップすることができたとプラスにも考えています。パワーアップした『ほうぼわかやま』で、今後も和歌山の魅力を伝えていければと思いますので、よろしく願いいたします。

編集長 宇治田 健志



おかげさまで弊社は創業40周年を迎える事ができました



印刷物を中心に広報活動をお手伝いする会社です。「ほうぼわかやま」の発行や本づくりを通じ、文字による地域文化の振興を目指しています。就職応援BOOK「COURSE(コース)」や、キャリア教育本「さくらノート」も発行しています。[沿革] 創業1972年。設立1981年。



**「ほうぼわかやま」発行について** 2021年8月発刊予定号はコロナ禍の影響で休刊とさせて頂きました。和歌山の歴史・文化を掘り起こし郷土愛を育む一助になればと、弊社が自費で2008年から年2回発行している情報誌です。また、この活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図ることを目的としています。

設置場所：和歌山市内の郵便局、コミュニティーセンター、TSUTAYA WAYなど  
詳しくはホームページをご覧ください。

ほうぼわかやまのバックナンバーは弊社ホームページからもダウンロードできます。

詳しくはウェブで検索→ <http://w-i-n-g.jp>

**協力機関** 本誌を作成するにあたり、次の機関・団体にご協力をいただきました。  
厚く御礼申し上げます。(順不同・敬称略)

高野町、株式会社シマムラ、NPO法人ゆうゆうスポーツクラブ海南

## クイズとアンケートで 当たる!!

『「吉祥宝来」きり絵』を  
(干支、寿、宝珠のいずれか)

10名様にプレゼント!!

ヒント

本号のどこかに  
答えが載っています

問題 次のうち、  
高野山発祥とされる食べ物はどれでしょう?

①ジンギスカン ②高野豆腐 ③とんこつラーメン

応募方法

Vol.25の答えは②紀ノ川でした

このハガキの各項目をご記入後、切り取って投函(切手は不要です)  
もしくは右記QRコードを読み取り、アンケートフォームからご応募  
ください。\*応募はお一人様一枚限りをお願いします。



メ切 2022年3月末日

本誌へのご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。